Frente

三重県男女共同参画センター
フレンテみえ
フレンテとはスペイン語で「前向き」という意味です。

2023.8
vol.94

あなたの魅力が輝く未来へ

特集！

はっけん！かがくのみりょく、みんなのみりょく
フレンテフェスタ2023

特　集

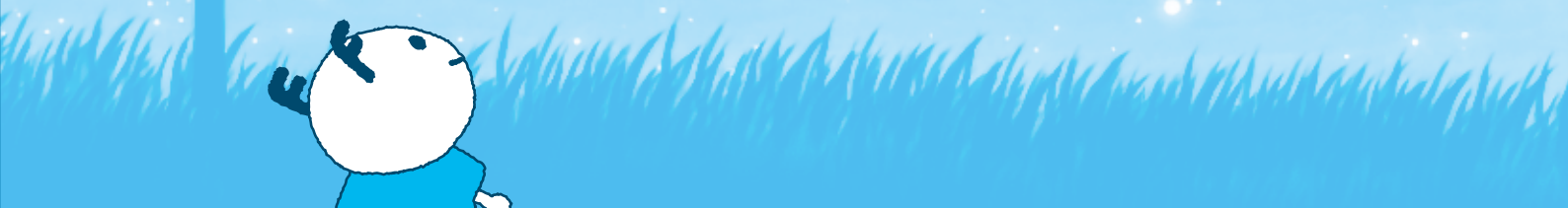
- 不定期連載
  フレンティが聞く！みえのひとびと
  山本康史さん
  （特定非営利活動法人みえ防災市民会議　議長）
- エッセイ
  山崎ナオコーラさん（作家）
  「わからないままでページをめくる」
  第2回「知的」という言葉のあやしさ

事業報告

- 鹿田昌美講演会
  「母親になって後悔してる」

事業案内

- **パートナーとの関係で悩んでいる女性のためのグループ**
- いまの自分をみつめる
  「人とつながることが苦手なあなたへ」
- 種まきプロジェクトⅢ“社会の課題”編
  『女性はもっと怒っていい！
  女性の怒りは社会の課題』
- **総文パープル・ライトアップ2023**
- 女性に対する暴力防止セミナー
  『暴力の周りにいる人にできること
  ～傍観者でいないために～』



フレンテみえ年に一度のおまつりイベント開催しました！

はっけん！
かがくのみりょく
みんなのみりょく

フレンテ

様々なブースが一堂に会するフレンテみえのおまつりイベント。コロナ禍で中止やオンライン開催が続いていましたが、4 年ぶりにフレンテみえでの開催が叶いました！

テーマは「はっけん！かがくのみりょく みんなのみりょく」。科学やものづくりなど「男の子の方が得意」と思われがちな分野を、性別に関係なく多くの子どもたちに楽しんでいただきました。いくつかピックアップしてご紹介します！

サイエンスショー

サイエンスエンターテイナーの京乃はるさんにお越しいただきました。「サイエンスショーを楽しみに来た」との声も多く、観覧席は満席の大盛況！自分でも実践できる、うがい薬を使って色水を透明に変える実験や、風の力を使って電気を発生させる実験、空気で物を浮かせる実験などを披露していただきました。中でも人気だったのは空気砲。どうしたら空気でできた輪が大きくなるのか、輪の形は変えられるのかなどを考えながら実験が進み、会場は大盛り上がりでした。

広場

恒例のフリーマーケットやマルシェで賑わいました。

広場でも、手作りおもちゃで遊べたり、自分で竹やパックでおもちゃを作ることができるブースもあり、笑顔で楽しむ子どもたちの様子がとても印象的でした。

ほかにも、フレンテみえの活動に賛同いただく様々な団体さんによる展示や講演会、三重県立看護大学さんによる健康チェックなど、盛りだくさんの一日でした。ご来場いただいた皆さまも、ご出展いただいた皆さまも、ありがとうございました！

フレンテメモ

OBN（オー・ビー・エヌ） ▶▶▶ オールド・ボーイズ・ネットワークの頭文字を取った用語です。イギリスのパブリックスクールのOBたちで作られた男性中心の組織や人間関係を表す言葉で、上層部が男性のみで固められた政府や企業、その組織が

フェスタ2023

スタンプラリー

各ブースにスタンプを設置してスタンプラリーを行いました。スタンプを５つ集めてゴールのお部屋に向かうと、フレンテみえが作成したオリジナル絵本「みっちときりー」が！未就学の子どもの目の高さに登場人物が飛び込んでくるような特大絵本に、みんな大興奮。絵本を読んで、フレンティのナゾに挑戦していただきました。

☆絵本「みっちときりー」は、WEB でも読めるよ。→

ものづくりワークショップ

ものづくりを体験できるワークショップを多数実施しました。
松阪工業高校さんのブースでは、子どもたちが自分で型から部品を取り出し、ヤスリで整え、プラモデルのように組み立ていきます。開始早々に申込終了してしまうほど大人気でした。
三重大学教育学部理科教育コースさんのブースでは、コマの図案に色を塗ってオリジナルコマを作ります。なんとこのコマは、回すと虹色になるんです！
ほかにも、てづくりマヨネーズのサイエンスクッキングや、紫外線で色が変わるビーズ付きの貝がらストラップづくりなど、楽しく科学に触れていただきながら、ものづくりに挑戦していただくことができました。

持つ閉鎖的な風土や文化を指す言葉として広まりました。日本でも女性活躍を阻む要因としてOBNが問題視されています。男性のみの同質性の高い組織では、異性や部外者の視点・意見が反映されにくく、多様性を保ちにくくなります。そのため、近年では、企業や大学において女性管理職や女性教授等の比率を高め、OBNを見直そうという動きがあります。

EVENT Report

事業報告

鹿田昌美講演会
「母親になって後悔してる」

開催日 5月27日(土)

書籍『母親になって後悔してる』の翻訳者である鹿田さんにお越しいただき、2部構成で講演会を開催しました。

第1部では、鹿田さんから日本におけるこの本の反響の大きさや本の中で語られている女性たちのリアルな本音、そしてそこから見えてくる女性たちが直面する生きづらさなどについてお話しいただきました。

第2部では会場にお越しいただいた方からの質問や普段感じているモヤモヤを匿名で募集し、フレンテみえの職員が聞き手となって鹿田さんからお話を聞きました。たくさん集まった声から、参加者のみなさんが毎日とても努力していることが分かったのに加えて、世の中から課せられる母親としての役割の大きさを会場の誰もが実感していました。そして、寄せられた声一つひとつを鹿田さんに丁寧に受け止めていただき、温かい気持ちになれる講座となりました。

事業予告

9/14~ パートナーとの関係で悩んでいる女性のためのグループ

参加無料

日時 9月14日、10月12日、11月9日、12月14日、1月11日、2月8日、3月14日
各木曜日 13:15～15:30

会場 三重県総合文化センター内
対象 夫、元夫、交際相手等との関係で辛い思いを抱えている女性、DVに悩む女性
定員 8名程度
講師 フレンテみえスタッフ
託児 あり 要事前申込 1歳6ヶ月～小学3年生程度 子ども一人につき500円 託児申込締切：各回2週間前

パートナーのふるまいについて悩んでいる方を対象としたグループを開催します。「普通に話したいだけなのに怒鳴られる、無視される」「殴られているわけじゃないし、DVってほどじゃない…」「これって、モラハラって言っていいのかな？それとも私が彼を怒らせているの？」「一緒にいるのは辛いけど、一人で生きていく自信もないし…」そんなふうに考えたことがある女性同士で集まる安全な場所です。自分に何が起きているかを学び、自分の気持ちを話したり、人の経験を聞いたりして、今の自分にできることを一緒に考えましょう。全７回で、学びのテーマは毎月異なりますが、１回だけの参加でも大歓迎です。一度申し込んだ後は欠席連絡もしなくて大丈夫です。都合のつく月にご参加ください。

10/1 いまの自分をみつめる「人とつながることが苦手なあなたへ」

参加無料

日時 10月1日(日) 13:30～16:30

会場 三重県総合文化センター 男女共同参画センター2階 セミナー室A
対象 テーマに関心のある女性
定員 30名 (9月10日(日)申込締切・申込多数の場合は抽選)
講師 増井さとみさん (ウィメンズカウンセリング名古屋YWCA 所属 フェミニストカウンセラー)
託児 無料託児 要事前申込 0歳3ヶ月～小学3年生程度 託児申込締切9月17日(日)

「仕事も家族もない、こんな私は誰にも分かってなんてもらえない。」、「ひとりがラク。でも、ときどきふと不安になる。」、「家族はいるけど、誰も私のことなんて心配してくれない。」、「いつもニコニコしているけど、心を許せる友だちはずっといない。」

フレンテみえの相談窓口にお電話くださる方の多くは、「孤独」を抱えていらっしゃいます。おひとり住まいの方に限らず、家族や仕事や友人がある場合でも、一見すると良好な人間関係を築けているように思える方であっても、実は人との関わり方に苦手意識を持ち「孤独」を抱える女性は多いです。

誰かとつながりたい。でも、なんだか不安。そんな女性の皆さん、まずは自分自身をみつめ、自分にとって心地良い人との距離感、境界線を自覚することから初めてみませんか？いまの自分を整理し、自分自身を知るなかで、自分なりの「他者とのつながり方」を考えてみましょう。

フレンテメモ EPD(イコール・ペイ・デイ)

「イコール・ペイ・デイ」＝「同じ賃金を
には、何日か余計に働く必要があります
日本のEPDは4月28日。男性と比べて1

事業予告

10/14～ 種まきプロジェクトⅢ“社会の課題”編
『女性はもっと怒っていい！女性の怒りは社会の課題』

女性の皆さん、怒ることはよくないと思っていませんか？いつもニコニコ笑っていることが、人としてあるべき姿だと感情を抑えてはいませんか？

怒りは自分が大切にしていることを傷つけられたり、尊厳を踏みにじられたりした時に「このままでは嫌だ」と教えてくれる大切な感情でもあります。あなたが持っている怒りの根源はなんなのでしょうか。それは本当にあなただけの個人的な感情なのでしょうか。

あなたの大切な怒りの感情を、社会を変えていく原動力にする講座です。怒りという感情と女性の怒りが社会を変えてきた歴史を知る１日、感じている怒りを誰にどのように表出し、変化を起こしていくかについて考える１日の計２日間の講座です。

あなたの怒りを聞かせてください。

参加無料

日時 10月14日、28日(土)
10:00～15:00

会場 三重県総合文化センター内
対象 テーマに関心のある女性、2日間とも参加できる方
定員 15名
講師 10月14日　加藤伊都子さん
（フェミニストカウンセリング堺　フェミニストカウンセラー）
10月28日　中村果南子さん
（コミュニティ・オーガナイジング・ジャパン　オーガナイザー）
託児 あり　要事前申込　1歳6ヶ月～小学3年生程度
子ども一人につき500円
託児申込締切 9月30日（土）

11/9～ 内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」（パープルリボン運動）
総文パープル・ライトアップ2023

毎年11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」（パープルリボン運動）期間です。内閣府が呼びかけるパープル・ライトアップに賛同し、今年も、竹あかり作家の川渕皓平さん率いるcanaarea（カナエリア）演出の「そうぶんの竹あかり」イベントとコラボレーションして、シンボルカラーの紫色の竹あかりを灯します。

暴力は性別を問わず、いかなる状況下であっても、決して許されるものではありません。特に、配偶者やパートナー・交際相手等からの暴力、性犯罪・性暴力、ストーカー行為、売買春、人身取引、セクシュアルハラスメント等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、その根底には、女性の人権の軽視があるとされています。

「自分も悪いかも」と自分に言い聞かせて、“なかったこと”にしてしまう前に、まずはあなたの声を聴かせてください。「ひとりで悩まず、まずは相談してください」一緒に考えましょう。フレンテみえにも相談室があります。

＊パープルリボン運動
1994年のアメリカの小さな町で、DV・虐待などの被害者による集まりが始めた暴力追放キャンペーンです。紫色のリボンを身につけることで、「暴力のない世界にしたい」という気持ちや、暴力の下に身を置いている被害者に「あなたは一人じゃないよ」と呼びかける、一人でも始めることができる運動です。

参加無料

日時 11月９日(木)～26日(日)
17:00～21:00　休館日を除く

会場 三重県総合文化センター内
知識の広場

11/26 女性に対する暴力防止セミナー
『暴力の周りにいる人にできること ～傍観者でいないために～』

DVの加害、被害の当事者の周りにはたくさんの目撃者がいます。目の前で暴力を受けていることを見ていながら、なにもできないでいることに罪悪感や無力感を持ち、目撃者も傷ついています。

暴力の現場では、何も言わずに傍観者でいることが加害者に加担していることになると言われています。では、ただの傍観者でいないためにできることはあるのでしょうか。一人では難しくても、たくさんの人が知恵を出し合うことで少しでも実現可能な、具体的な方法が思いつけるかもしれません。

臨床心理士・公認心理師・フェミニストカウンセラーで自治体の女性相談・DV相談、刑事施設カウンセラーもされている福田由紀子さんの講演と、ケースを元にしたグループワークの二部制で、目撃者となったその時に、いったい何ができるのかを考えていきます。

参加無料

日時 11月26日(日)
13:30～15:30

会場 三重県総合文化センター内
三重県文化会館1階　レセプションルーム
対象 テーマに関心のある方
定員 30名
講師 福田由紀子さん
（臨床心理士　公認心理師　フェミニストカウンセラー）
託児 あり　要事前申込
1歳6ヶ月～小学3年生程度
子ども一人につき500円
託児申込締切 11月12日（日）
共催 三重県

手にする日」の略。女性の平均賃金が男性より低いのは残念ながら世界共通です。女性が男性と同じ金額を手にする
す。「男性の１年より余計働いて、女性が男性１年分の賃金と同額を手にする日、それが「イコール・ペイ・デイ」です。
18日も多く働いてようやく同額になる計算です。

不定期連載
インタビュー
フレンティが聞く!

みえのひとびと 第12回

山本 康史（やまもと やすし）さん（特定非営利活動法人みえ防災市民会議　議長）

今年に入ってから日本各地で災害が相次いでいることもあり、災害への備えの大切さが改めて叫ばれています。近年は特に社会の少子高齢化等を受けて「共助」の部分を担う地域防災が注目されるようになってきています。

今回はみえ防災市民会議で議長を務められている山本康史さんに、地域防災という切り口からこれからの地域のあり方についてお話を伺いました。

▲地域防災活動に取り組む仲間たちと

山本さんの団体の活動内容について教えてください。

私たちの役割は被災地の最前線で活動をするというよりも、“裏方”。「ボランティアをやりたい」という思いを持った人がうまく活動していただけるような『環境』を整えることをメインの役割としています。自分で「これをやりたい」と思っていても、実際に行動を起こせる、行動の場を自分で作れる人ってそんなに多くないじゃないですか。そこのお手伝いをしています。被災地の情報を集めて、それをもとにボランティアの募集をかけ、被災地に向かうバスをチャーターしたり、宿泊スペースを確保したり…ですね。また、私は県内の自治会や学校の防災講座で講師を務めたりもしています。

活動を通して、三重県の地域防災の課題にはどんなことがあると感じていますか？

地域は今、私たちが実感している以上のスピードで多様化が進んでいます。先日防災講座を行った伊賀市を例にとりますと、全人口に対し65歳以上の人は3人に1人、外国人は15人に1人、要介護認定を受けている人は14人に1人、14人に1人がペットの犬を飼っている…という割合です。14～15人に1人って結構な割合ですよ。市民15人集めたら1人は外国人ということですから。

大災害発生時はこれらの人々も含め被災者となるわけです。女性の生理用品はどうする？外国人の方に情報は届くか？ペットはどうする？多様な課題が表面化します。「私の回りでは普段そんなに外国人を見かけない。」そんな声が聞こえてきそうですが、そういった方々が地域の中で見えなくなってしまっていないでしょうか。これらの方は災害発生時に避難所に来ないかもしれません。しかし、避難所に来ない人に救援物資や情報を与えないというわけにはいかない。すべての人に支援の手を差し伸べるための方法を考えなければならないのです。まずは、地域に多様な人々が住んでいるということに気づき、実感することが大切だと思います。

地域防災の場においても多様性に配慮した仕組みを考えることが求められていますね。

そうですね。地域で「防災リーダー養成講座」を行うと「防災リーダーだから女性のことも外国人のことも障がい者のこともすべて支援できる存在でなければならない」と考える人もいたりするんですが、そんなことは無理です。ではどうするか。「女性の視点を持っている人」「外国人に配慮ができる人」「障がい者のことを分かっている人」それぞれをどうつなげていくか、を考えた方が現実的です。自分でできないことをできる人につなぐ。どうすればうまくつないでいけるかを考える「つなぎ役」がこれからの時代に求められるリーダー像なのかな、と思います。

多様な人をどうつなぐか、ですね。地域のリーダー的立場になる自治会などでは、地域の会合への参加者が高齢男性に偏っているといった課題を抱えている所も少なくありません。地域活動に多様な人が参加してもらうにはどうすればいいでしょうか。

普段お仕事をされている方、していない方、子育てをしている方…それぞれ参加しやすい時間帯も違えば、関心のあるテーマも違います。自治会活動はこうあるべき、のようないろんな「べき」をちょっと手放して、もっと根底の、自分たちの生活を一人一人が主体的に考えていくにはどんな『場』が必要かを考えることが必要かなと思います。時間帯、話し合いのテーマ設定もそうですし、会場設定も公民館に集まってペットボトルのお茶を用意する形だけが正解ではない。喫茶店でケーキセットをつまみながら話し合ってもいいし、あえて集まらずLINEのオープンチャットで意見を出し合うでもいいじゃないですか。それぞれの地域に住む当事者たちが参加しやすく、意見が出しやすい、『場』のデザインが求められていると思います。

防災の分野に限らず、『場』を整えることはとても大切なんですね。

話し合いを行う上ではその『場』がどうデザインされているかで出される意見の充実度も変わってくるそうです。様々な意思決定の場で女性の割合を増やすことが呼びかけられていますが、これもいわば議論の場のデザインですよね。政治・経済の分野は言うまでもありませんが、地域レベルでもそうした議論の場のデザインを転換していく時期にあると思います。私も今後の活動で、そんな場を一緒につくっていく手助けをしていければと思っています。

フレンティメモ　DEI　（ディー・イー・アイ）

企業経営において、社員それぞれが持つ多
（公平性）、IはInclusion（包括性）の頭文字
ひとりが異なり、全員が能力を発揮するには

Essay

わからないままでページをめくる

山崎 ナオコーラ

今年度一年かけてご覧いただく山崎ナオコーラさんによるエッセイ。今回は全４回のうちの第２回です。
第１回のエッセイは右のQRコードからご覧いただけますので、こちらもぜひご覧ください。
全４回のエッセイをとおして、山崎さんと一緒に「自分らしく生きること」について考えていきます。

第2回　「知的」という言葉のあやしさ

私は「知的」という言葉に引っかかりを覚えるようになった。

このところ、「知的発達症」（多くの自治体では「知的障がい」と表記していますが、この頃は「知的発達症」という言葉を使う流れもあるようですね。）を対象にした特別支援学級に通う小学生たちと会うことがよくある。すると、決して「『知的』なところで苦手なところがあるとか困り感があるとか」というふうではなく、「多数派とは違う思考が得意」「少数派なだけ」という感じに私には見えるようになった。

特別支援学級は軽度な子どもが多いが、特別支援学校など他の教育機関には重度の「障がい」があるとされている子どももいる。その子どもたちだって、「知的」な活動はしている。人間の多数派は、言葉や数、それから形や時間などで世界を認識している。だから、そういうもので「知能指数」をはかるテストを作ったり、そういうものを使用する教育システムを整えたりして、現状の教育シーンを維持している。でも、本来は、人間はもっと自由に頭を使い、世界を不思議に認識し、人から多様なものを教わって成長するはずだ。もしも、こういった子どもが多数派だったら、今の社会には違う教育システムがあっただろう。

本に関わる仕事をしている私は、仕事のシーンでも「知的」という言葉をよく目にする。読書は「知的」な活動だとみなされがちだ。言葉や論理で思考する方法が「知的」と思われている。でも、「知的」って、それだけではないはずだ。

本は自由だ。ページをめくるだけでも立派な読書だ。いや、表紙を眺めるだけだっていいのだ。言葉を使わずに思考する人だっている。言葉や数を使わずに世界を認識する人たちが、「知的」な活動をしていないとは思えない。

「知的なことが得意」「知的なことが苦手」といった線引きは、言葉や数での世界認識法を押し付けている。多数派に都合の良いように人間に線引きをするおかしさがある。

線引きといえば、私は長らく、「性別の線引き」に異議申し立てをしながら仕事をしてきた。「女性」「男性」といった性別を表す言葉を極力使わずにエッセイや小説を綴ったり、「性別とは、なだらかな違いしかないのだから、くっきりした線を引くように言葉を使うのは難しい」といったことを書いたりした。ただ、最近は、「なだらかな違い」さえも、認識したくない人は認識しなくていいのではないか、と考えるようになってきた。

「性別」という価値観は、多数派にとって都合の良いものだ。多数派に馴染みやすいもので人間に線を引くと、社会を維持しやすくなる。そういう便宜的なものなのだから、線など気にせず過ごす人がいてもいいし、そもそもの価値観を疑ってもいい。性別を既成のものとは違う基準で捉えてもいいし、性別のことなどまったく考えずに他の価値観で生きていってもいい。

山崎ナオコーラ
作家

1978年福岡生まれ、東京育ち。國學院大學文学部日本文学科卒業。2004年から小説やエッセイの発表を始める。最新刊は、現代のジェンダーや社会規範と照らし合わせて源氏物語を読むエッセイ『ミライの源氏物語』（淡交社）。目標は、「誰にでもわかる言葉で、誰にも書けない文章を書きたい」。

多様な個性が最大限に生きることがより高い価値創出につながるという考え方です。DはDiversity(多様性)、EはEquity
です。この中で注目されているのがEの公平性。公平な扱い、不均衡の調整を行う「公正性」を意味します。私たちは一人
は、「平等」はなく、一人ひとりに合った環境を整える「公平」が重要です。

ジェンダーギャップ指数、日本は世界125位。ここから抜け出すために、身近に感じる違和感を声に出して…。（by所長）

第2回

フレンテスタッフコラム　4回シリーズ

“女性と政治”についての気になるあれこれ

「クオータ制」について、ふと思うこと

女性議員はどうすれば増えるのか、という話の中で最近よく聞かれるようになってきたのが「クオータ制」。これは、マイノリティ側にあらかじめ割り当てを設定するポジティブ・アクション（格差是正のための暫定措置）のひとつで、政治の男女差でいうと、議席や候補者の一定数・比率をあらかじめ“女性枠”として配分しておく等の制度です。ちなみにクオータは割り当てを意味する「quota」で、クオーター（4分の1＝quarter）とは違います。

どの国でもこの制度については賛否がつきものですが、よく聞かれる反対意見は、「女性というだけで当選しやすくなるのは不平等」「逆差別では？」というもの。女性も含めて、そう感じてしまう方はいらっしゃるでしょう。

ふと思うのですが、本来「選挙」とは、男性であろうと女性であろうと議員として相応しい人に投票するのであって、女性ならだれでも、という選び方はしていないはず。有権者はそこまで怠けていないはず。でも現実に差はある。とすれば、議員の男女差はまず「候補段階での男女差」がそもそもの発端ということでは。

女性は未だ、志があっても立候補どころか声をあげることすらしづらい環境にあります。そしてそこには根強いジェンダー意識や家事労働負担の偏りが大いに影響しています。選ぶ対象が偏っている状況で既に平等とは言えないはずなのに、クオータ制となると急に不平等？“いま既に存在する差別”に手を打とうとしないのに“逆差別”？　…と、これは素朴な疑問です。

内閣府の2020年の報告書によると、政党主導も含めて制度を導入しているのは118の国と地域で、日本の衆議院にあたる下院での女性比率は、制度のない国が18.6%、ある国では25.6%。その時点での日本は9.9%です。そして、今年6月発表、各国の男女格差を数値化した「ジェンダーギャップ指数2023」で、日本は過去最低の125位（146か国中）。特に政治分野は世界最低レベルの138位でした。…逆差別を訴えてブレーキをかけるのは、もっと後でもよいのでは。

逆差別は平等を実現する過程で生じるもので、これ自体はもちろん抑えていかなければなりません。ただ、その先にある「平等の実現による利益」は、いま差別を受けている人だけでなく、逆差別を訴える人たちにも一様にもたらされます。

まずは女性も男性も、どちらもより多くの候補者のなかから相応しい人財を選べる環境に。ポジティブなアクションがなければ、何も変わらないのでは。

2018年、男女の候補者数を「できる限り均等」にすることを各政党に求める『政治分野における男女共同参画推進法』が施行されました。これは、「アクション」。

均等とは、平等で差がないこと、です。

吹き始めた「女性の風」が“どこ吹く風”にならないように、各政党のできる限りを見極めてみませんか。事々しく。

【表】「ジェンダーギャップ指数2023」（世界経済フォーラム）2023年6月

日　本	順　位（146か国中）	スコア（「0」が完全不平等、「1」が完全平等。数値が小さいほどジェンダーギャップが大きい）	前回順位・スコア（146か国中）
政　治	138位	0.057	139位（0.061）
	国会議員（衆院議員）の男女比 … 131位（0.111）		
	閣僚の男女比 … 128位（0.091）		
経　済	123位	0.561	121位（0.564）
教　育	47位	0.997	1位（1.000）
健　康	59位	0.973	63位（0.973）
総　合	125位	0.647	116位（0.650）

このコーナーでは、「女性と政治」について感じること、両者の距離を縮めるために必要な意識や知識について、4回にわたってつぶやいてまいります。ゆっくりお付き合いください♪

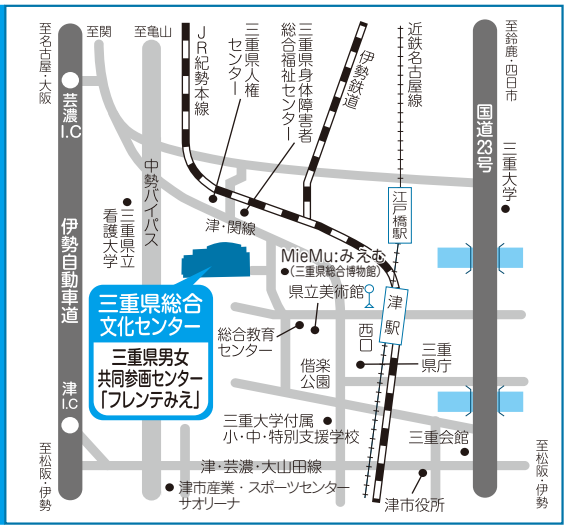
フレンテみえ って、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として
津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。
情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流および
人材育成の「6本の柱」で、様々な事業を展開しています。
ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ　検索

三重県男女共同参画センターまでのご案内



休館日　毎週月曜日
年末年始
（12月29日から1月3日まで）

交通
■バス／津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩／津駅西口から約25分
■自家用車／伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台（無料）。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

〔年4回発行／次回12月発行予定〕

発行
MIE CENTER FOR THE ARTS 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL：059-233-1130　FAX：059-233-1135
URL https://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail：frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。

フレンテみえ相談室のご案内

（切り取ってご利用ください）

生き方・家族・人間関係・離婚・職場　などなど・・・
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

☎ 女性のための電話相談　秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室　専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間＼曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝 9:00～12:00	休館日※	●	●	●	●	●	●
昼 13:00～15:30		●	—	—	●	●	●
夜 17:00～19:00		—	—	●	—	—	—

※祝日の場合「朝・昼」相談あり（翌平日が休館日）

＊このほか、女性のための面接相談・法律相談・心理相談と、男性のための電話相談・みえにじいろ相談を実施中。詳しくはお問合せください